

## 第4回 ～言語活動の充実に向けて～

### 考えたことを表現させるための「ノート指導」の工夫とは？

前回までは、「授業づくり」を中心に掲載してきましたが、今回は、言語活動の充実を図るために「ノート指導」の工夫について、実践例をもとに考えてみたいと思います。

ところで、小学校学習指導要領解説 社会編「第1章 総説 3 社会科改訂の要点 (1) 目標の改善」に次のような記載が見られます。

省略 ～ 能力に関する目標については、これまでの「調べたこと」に「考えたこと」を加え、「考えたことを表現する」ことを一層重視した。(下線引用者)

このように「自分の考えを表現する」ための学習活動が、小学校のみならず中学校においても重視されています。

児童生徒一人一人に「自分の考えを表現させる」ための手段としては、下に示したとおり、「書く活動」が有効であることを考えると、ノートの活用について適切に指導することが重要であると思います。

「書く活動」 → 「考える」 → 「考えを整理する」 → 「考えを確かめる」 →  
(話し合い、学び合い等の交流活動を通して)  
→ 「考えを振り返る」 → 「考えを修正する」 → 「考えを深める」

### ○自分の考えを表現させるための「ノート指導」の工夫とは？

A小学校（B教諭）の実践事例を参考に考えていきたいと思います。

#### ○ノート指導の充実について

ノート指導を充実させるために、毎時間、ノートに「書く時間」をしっかりと確保することとした。

そのために、右に示したような「問題解決的な学習の授業展開パターン」を設定し、これをもとに授業を行うことで、児童がしっかりとノートに向き合ったり、ノートをもとに話し合ったりすることができるようとした。

#### ★ 問題解決的な学習の授業展開パターン ★

- ① 資料の分析
- ② 本時の課題
- ③ 資料をもとに問題解決(調べたことをノートに書く)
- ④ グループによる意見交換+発表内容の練り上げ
- ⑤ 発表(板書で構造化する)
- ⑥ 練り上げ、深める(見えてきたこと、分かったこと)
- ※ 追加資料を提示し、理解を深める。
- ⑦ 次時へのつながり
- ⑧ まとめ(自分の考えを深める、学習を振り返り、理解を深める)

ノート指導の充実では、前の③の段階で資料を調べ、読み取った内容を自分でノートにまとめられるように個別支援する。

また、調べ方や整理のしかたなどの学び方を身につけさせるため、教科書の「学び方コーナー」を使って、計画的に繰り返し指導することで、「資料活用の技能」を確実に身につけることができるようとした。

『東京書籍 新しい社会6上』→

### まなび方コーナー

#### グラフから歴史的事象を読み取る

明治期の工業の発展を調べる

【グラフを読み取る】

・全体的にどういう傾向を示しているかを読み取る。

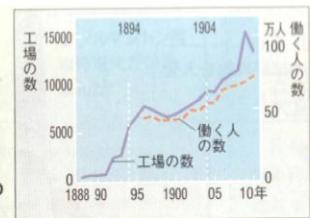
・変化の様子が特に変わっている年があるかどうかを読み取る。

・二つのグラフの変化の様子を比べて、つながりがあるかどうかを確かめる。

【変化の大きい年について調べる】

・その年にどんなことが起きたのか、グラフの変化と関係のありそうなできごとをぬき出す。

・外国で起きたできごとなども調べ、グラフの変化と関連がないかも調べてみる。



●工業の発展

●主要な生産品目の推移

輸出  
1882 水産物 3772万円  
生糸 43.0% 緑茶 5.84  
米 28.6

1899 紡織物 石炭 総額2億1493万円  
生糸 29.1% 緑茶 8.1 7.1  
米 42.4

輸入  
1882 紡織物 砂糖 総額2945万円  
綿糸 22.3% 砂糖 15.1  
米 31.5

1899 毛織物 石油 総額2億2040万円  
綿糸 27.8% 石油 8.0  
米 42.0  
機械類 6.2 鉄類 5.4  
[日本貿易精算]

## ☆ノート指導実践例（1）～日常のノートづくり～

### ○指導の工夫（1）

自分で調べた歴史的事象について、それぞれを関連づけながら思考させる。その後、思考過程を自分の言葉、線、矢印などを用いて整理し、表現できるよう支援する。

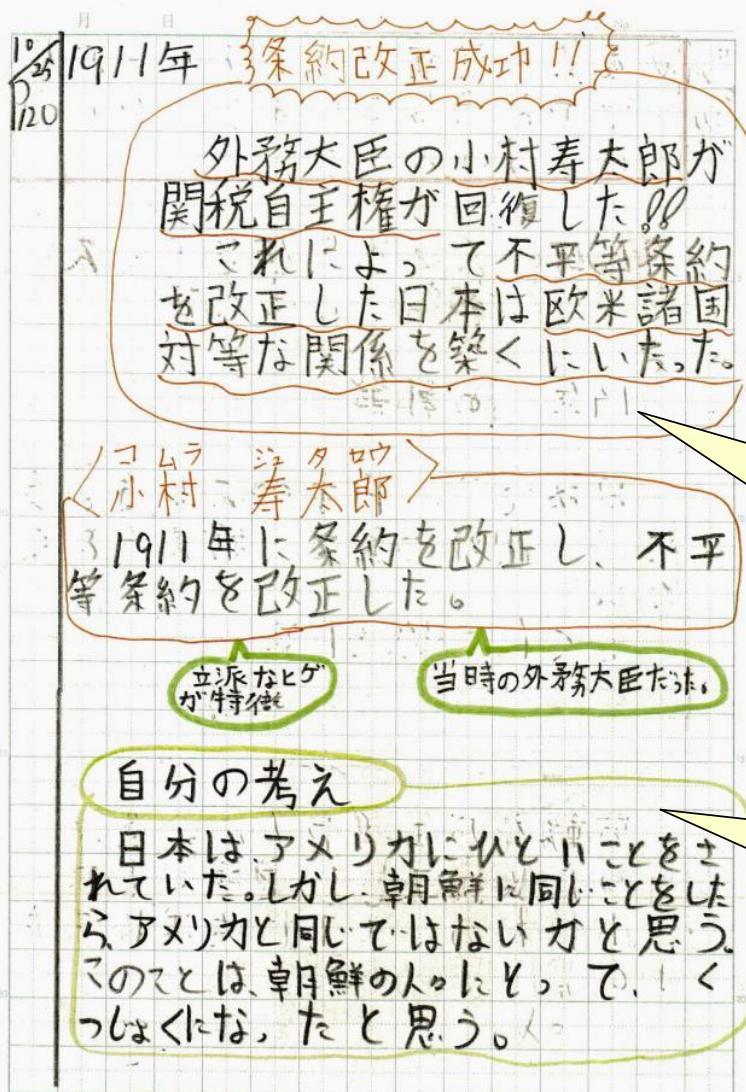


矢印に「つなぎ言葉」を書き加えて、社会的事象の関連づけを図る。



キャラクターや吹き出しが活用して自分の考えを表現させ、学習内容を深めることができるよう





## ○指導の工夫（2）

毎時間、授業の最後に自分の考えをまとめる時間を設け、学習内容の理解を深めるように支援する。



学習課題にかかわる人物については、教科書や資料集を用いて調べ、自分なりの言葉でまとめることを指導する。



まとめとして、本時の学習を振り返って、課題に対する自分の考えを書かせる。



こうした子どもたちのノートは、教師の評価（ノートづくりの観点）を入れて、コピーし、全員に配付することで、全ての児童に広めようとしている。

## ☆ノート指導実践例（2）～年表を活用したまとめの工夫～

年表の活用については、小学校学習指導要領解説社会編においても、その重要性が強調されている。

一般的に、年表には大きく3つの意義があると指摘されている。

- ① 事実を正確に把握することができる
- ② 歴史的事象の相互の関係を考えさせることができる
- ③ 時代の特色を考えさせることができる。

このことから、小単元の学習の過程で学んだことを年表にまとめ、小単元のまとめとして年表を完成するようにする。年表を作成させることを通して、変化していく時間を意識させ、歴史的事象相互の関係や時代の全体像を考えさせることができると考えた。

## ○ 指導の工夫（1）

作成中の年表と学習問題は、社会科コーナーに常時掲示して意識化を図るとともに授業の際は、黒板に掲示して活用を図った。

学習した内容を年表にまとめ、歴史的因果関係や活躍した人物などを整理していく。



## ○ 指導の工夫（2）

ワークシートの前半に、既習事項を記載することで、その後の学習がスムーズに展開できるようにした。

歴史的事象間の因果関係を自分の言葉でまとめている。

歴史的事象の意味をまとめてい  
る。時代の特色的理解が深ま  
っている。

それぞれが、ノートをまとめている時間は、個別支援の充実に努め、一人一人の思考の深まりを促した。



日本の産業の発展に關係のあることをまとめていこう！ 世界の国々との關係も書いていこう！	
年	主なできごと
1854	江戸幕府が開国する。ペリー (アメリカ)
1858	不平等な条約を結ぶ。
	五箇条のご誓文が出される。(明治時代の始まり)
	ヨーロッパに使節団が送られる。大久保利通・木戸孝允
1894	ノルマントン号事件 イギリス 令貿事裁判木査を無くすことに成功!
1904	日清戦争 (日本VS中国) (陸奥宗光) 賠償金ある？・台湾を植民地にした！
1910	日露戦争 (日本VSロシア) 東郷平八郎 賠償金なし！・朝鮮を手に入れる！ 韓国の支配！ 満州鉄道
1911	朝鮮を植民地にした。韓国併合
1912	関税自主権を改正! 小村寿太郎 日本で活やくした日本！
1913	英世... 热病 皇后泰二郎... 石原寅風 志賀... 漢... 芳洲菌 新戸... 造船... 国際連盟の事務局長
1914	文学 { 夏目漱石 。 通口一雄

## ☆ノート指導実践例（3）～人物関係図を通したまとめの工夫～

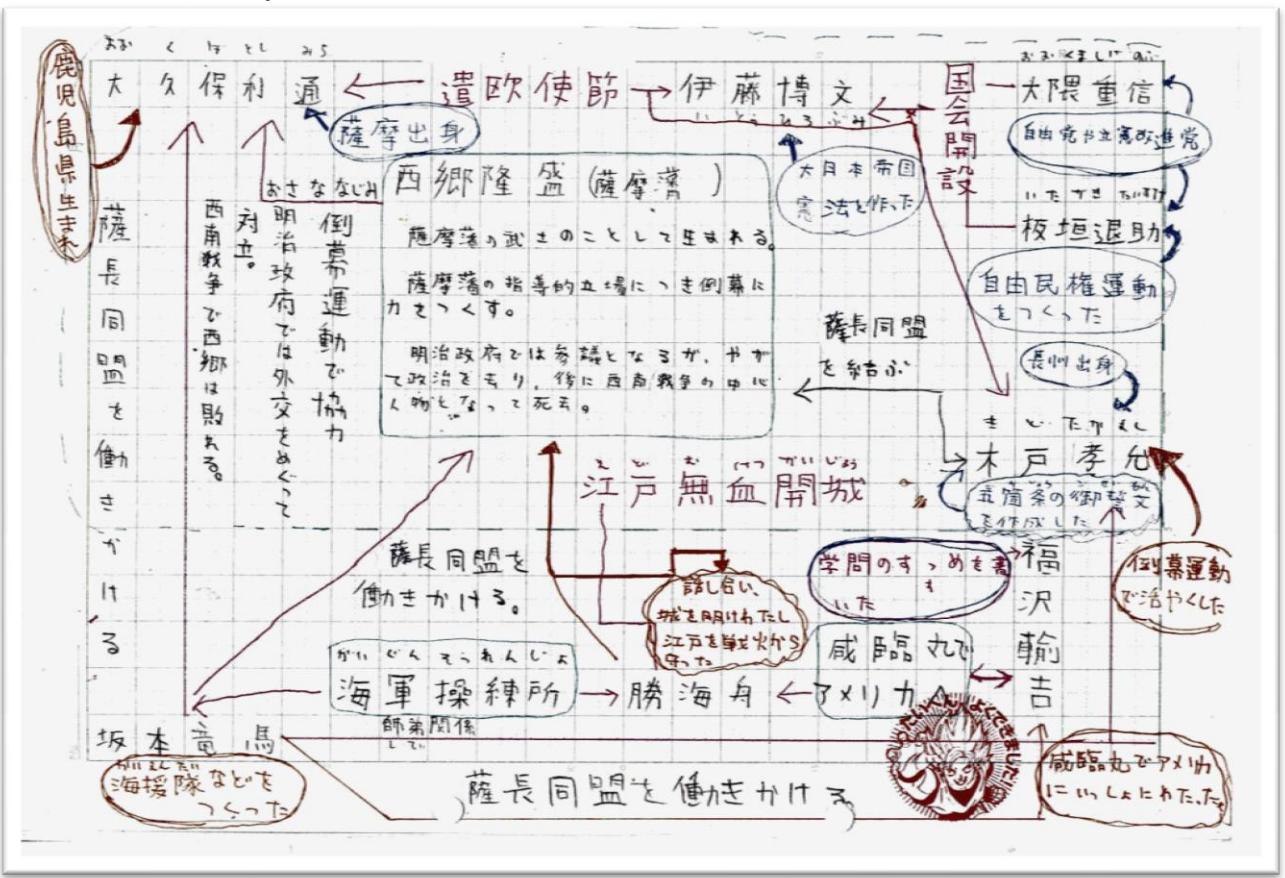
小学校学習指導要領解説社会編において、言語活動の充実を図る手立てとして、「入手した情報を比較・関連づけ・総合しながら再構成する学習」の重要性を記載している。

また、小学校の歴史学習においては、人物の働きや代表的な文化遺産を中心として学習することを考えた場合、人物関係図の作成を通したまとめ方を工夫することで、言語活動の充実が図れると考えた。



### ○ 指導の工夫

「明治の国づくりを進めた人々」において、「どのような人たちが、どのような願いや思いで、国のしくみや社会を変えていったのか？」という学習問題にせまるため、小単元のまとめで人物関係図を用いて、比較・関連づけ・総合しながら再構成することで理解を深めたいと考えた。



今回は、「ノート指導」の工夫について、実践例をもとに考えてみました。このような取り組みが、日々の授業で実践されていることに大きな意味があると思います。

再度確認しますが、今求められている「言語活動の充実」とは、児童生徒一人一人に思考力・判断力・表現力等を身につけさせるための手段です。

今回掲載させていただいた先生の実践のように、日々の授業における「言語活動の充実」が、いかに大切かということを改めて感じることができたと思います。

今回は小学校の実践例ですが、中学校においても参考にしていただきたいと思います。